

地域とともにある
学校づくり

えべつ型コミュニティ・スクール

えべつCS通信

江別市教育委員会 教育部 総務課



「えべつ型CS」地域とともにある学校づくり【実践例紹介】

江別市の伝統（教育のまち：オール江別で子どもを育てる）を基盤として、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行う「えべつ型コミュニティ・スクール」の実践例を、今年度も順次紹介していきます。

東野幌小（地域の方をゲストティーチャーに招いての道徳の授業）

「6年合同道徳」 《地域に学ぶ》

5月11日(金)の3校時に、登下校時に児童の見守り活動を行っている学校運営委員の斉藤さん、元あさひが丘自治会長の喜田さん、元保護者でふくろうの会会員の渡部さんの3名をゲストティーチャーに招いて、6年（2学級）合同の道徳の授業が行われました。

まずはじめに、授業者である高橋校長先生からゲストティーチャーの紹介が行われ、続いて、「社会（地域）貢献について考えよう～自分たちでできること～」との課題が提示されました。その後、3人の方から、見守り活動を始めたきっかけや続けている理由、子どもたちに求めることなどを話していただきました。3人の方からの話を元に子どもたちはグループごとに話し合いを行い、意見をまとめて、発表しました。

最後に児童の代表が3人のゲストティーチャーに謝辞を述べ、授業が終わりました。



3名のゲストティーチャー



授業者の高橋校長先生



グループでの話し合い



グループでの話し合い



発表の様子



児童代表からの謝辞

※この授業の様子は、北海道新聞の5月15日付け朝刊の江別版にも掲載されました。

平成29年度学校評価の結果について・・・【その1】

平成30年1月発行の「えべつCS通信」第7号で紹介したとおり、えべつ型コミュニティ・スクールの三つの機能の一つに「学校関係者評価の実施」があります。

各学校では、学校運営委員会を開催して、学校関係者評価を行い、結果をホームページや学校だよりなどで公表していますが、江別市全体の結果がまとまりましたので、紹介します。

1. 評価分野について

江別市では、平成21年度から、「経営方針の重点」、「教育課程・学習指導」、「生徒指導」の3分野を必須としています。全校の平均は5分野で、3分野以外で各校が自由選択した評価分野の主なものは、「保護者・地域との連携」、「健康安全指導」、「特別支援教育」の三つです。これは、昨年度と同様の傾向ですが、新たに特別な教科となる「道徳」に関わる評価分野を3校が設定しています。

- ・保護者・地域との連携（12校）
- ・健康安全指導（11校）
- ・特別支援教育（7校）
- ・道徳教育（3校）

2. 自己評価の状況について

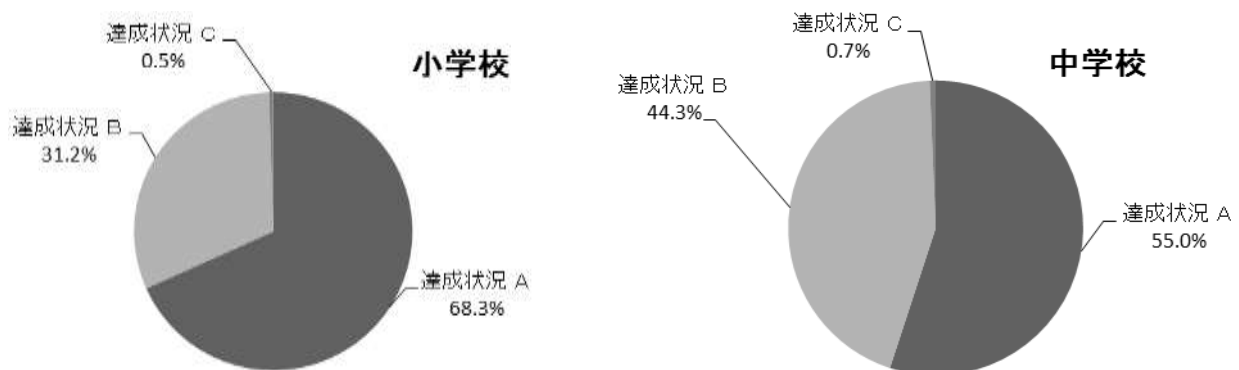
自己評価は、「A=よい、B=おおむねよい、C=ややよくない、D=よくない」の4段階で行っています。

昨年と比べて、全評価項目のうちA評価の割合は、小学校では微増となり、A評価は68.3%、B評価は31.2%となりましたが、中学校のA評価は10.1%減となり、55%、B評価は44.3%となっています。

【小学校】A68.3%（64.9%）、B31.2%（34.6%）

（ ）内はH28年の数字

【中学校】A55.0%（65.1%）、B44.3%（34.3%）



3. 学校関係者評価で寄せられた意見について

意見総数は、小学校で96件、中学校で41件の計137件でした。意見ゼロの学校は、ありませんでした。

意見は、大別して

A) 評価の項目設定、評価の個別または全般に対するもの

B) 分野に関わる改善方策や日頃感じていること

などに分けることができ、A)は21件、B)は116件でした。B)は学校と地域・家庭との連携（開かれた学校）に関すること、児童・生徒への指導に関すること、教職員に関すること、教育課程・学習指導に関することなど、多岐にわたっています。

主な意見の紹介は、次号で行います。